

減量明細 処理方法コード一覧 (H31.3時点)

(事業系廃棄物減量明細右側「処理方法」欄に記入していただく業者コード)

*一般廃棄物処理業許可業者に委託している場合

(業者名は許可番号順)

コード	業者名	コード	業者名	コード	業者名
1	小坂産業㈱	36	サカエ産業㈱	68	三宝産業㈱
2	南工コティック山根商店	37	KEC cleans㈱	69	大和興産㈱
3	南大工商店	38	森立川清掃	70	南社克商店
4	南五十嵐商店	39	南鶴東産業	71	南岩本商会
5	株山本清掃	40	新田産業㈱	72	南ラゴ
6	南山根商店	41	南タナカリンアップサービス	73	株ヤマナ
10	南サント	42	AQUALレインボー	74	株ナプラス
11	株れおイレブン	43	南小西清掃	75	株大剛
14	南河津商店	44	伏見クリエイト㈱	77	京都エコクリエイト㈱
15	南中川商店	45	株オカムラ産業	78	株ランナース
16	京都環境衛生㈱	46	南アサヒ産業社	79	南松本商店
18	株松田商店	47	株ライブ	81	神崎商店
19	株山文	48	株高島商店	82	南平塚商事
20	南森商店	49	市川商店	83	株アイリンク
21	南クリーントリヤマ	50	テックス・カンボ㈱	84	株グリーンエムテック
22	株下屋敷商店	52	南ウエグチ興産	86	株ディーエムティー
23	株川崎環境開発興業	53	株白青舎	87	南木下カンセー
24	株江商店	54	株丸富産業	88	南グローバルクリーン
25	南バッカーズ	56	株木村商店	100	京都環境事業㈱
27	南河原商店	58	南エヌストランス		
28	白川商店㈱	60	南カネムラ		
29	上田清掃㈱	61	株タカノ		
30	南西山産業	62	南丸加清掃		
31	竹之内運送㈱	63	ホームケルン㈱		
32	株木下商店	64	東山管理センター㈱		
33	島山商店	65	フロムメンテナンス㈱		
34	株泉原商店	66	高野清掃㈱		
35	つじもと商事㈱	67	南三協清掃		

*一般廃棄物処理業許可業者に委託していない場合

(注)

コード	処理の方法
999	自社で市の廃棄物処理施設(クリーンセンター)に搬入
998	自己焼却(自社の焼却炉で焼却)
997	メーカー・納入業者引取り
996	京都市ごみ減量推進会議(秘密書類リサイクル事業)
995(注)	その他

<995を選択した場合の記入例>	
古紙回収 〇〇〇〇〇〇〇 (TEL番号を記入)	廃油回収 〇〇〇〇〇〇〇 (TEL番号を記入)

最新の情報は市のホームページで御確認ください。

<事業用大規模建築物減量計画書の記入方法>

(裏面)

第4号様式 (第5条関係)

事業用大規模建築物減量計画書

(宛先) 京都市長		〇〇年〇月〇日		毎年5月31日までに提出してください。(必着)	
提出者の住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地) 〒604-0925 京都市中京区上本願寺町〇〇番地		提出者の氏名(法人にあっては、名称及び代表者名) 減量商事株式会社 代表取締役 減量太郎 電話 213 - 〇〇〇〇			
京都市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例第21条第1項の規定により提出します。					
年 度		〇〇 年 度			
作 成 の 年 月 日		〇〇 年 〇 月 〇 日			
名 称		減量商事株式会社 第二ビル			
所 在 地		〒604-0924 京都市中京区一之船入町〇〇番地			
事業の用に供する部分の床面積の合計		1,534 平方メートル			
構 造		鉄筋コンクリート造 地下1階 地上5階建て			
建 築 物	用 途	数	床 面 積		
	事 務 所	1	855 平方メートル		
	店 舗	1	579		
	学 校				
事 業 者 の 内 訳					
その他()					
廃棄物の保管場所	再生利用をする廃棄物の保管場所	1 箇所 5 平方メートル			
	再生利用をしない廃棄物の保管場所	1 箇所 3 平方メートル			
建 築 物 の 管 理 者	氏名(法人にあっては、名称及び代表者名)	再生ビル管理株式会社 代表取締役 再生花子 電話 222 - 〇〇〇〇			
	住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地)	〒604-0924 京都市中京区一之船入町〇〇番地			

箱書ではっきりと記入してください。ゴム印などによる印字でも差し支えありません。

区分所有の場合、建築物の全体を賃貸している場合など、特別な場合については右下「事業用大規模建築物の所有者」を参照してください。

同一敷地内に複数の建物がある場合は合計を記入してください。

テナントビルなど多数の事業者が入居している場合には別添一覧表を添付してください。

保管場所を要した場合は、保管場所の位置図、平面図及び立面図を添付してください。

建築物全体の総合的な管理を他者に委託している場合はここに記入してください。所有者が自ら管理している場合は記入の必要はありません。

減量明細 業種コード一覧

(事業系廃棄物減量明細裏面の業種欄に記入してください。)

大分類	コード	業種の範囲
農林水産業	11	農林水産業
鉱業	21	鉱物
建設業	31	建設業
製造業	41	食品関連
	42	繊維・衣服関連
	43	木材・家具関連
	44	紙・出版関連
	45	プラスチック関連
	46	ゴム・皮革製品関連
	47	金属・機械器具関連
	48	その他
卸売業	51	食品関連
	52	繊維・衣服関連
	53	その他(取扱品目が限定されているもの)
	54	複合
小売業	61	百貨店・スーパー・ファッション等専門店ビル
	62	コンビニエンスストア
	63	小売市場、商店街
	64	食品関連一般店舗
	65	その他物品関連一般店舗
飲食業	71	ファーストフード
	72	レストラン・一般食堂
	73	軽食店(喫茶店・バー)
事務所・営業所	81	事務所関連
	82	国関係事務所
	83	府関係事務所
	84	市関係事務所
テナントビル	91	事務所関連
	92	飲食店関連
	93	物品販売関連
	94	複合
サービス業	101	ホテル・旅館業
	102	病院
	103	福祉施設(養護学校、老人福祉施設、老人保健施設)
	104	学校(大学、専門学校、小・中・高等学校等)
	105	会議場・イベント会場(結婚式場、葬儀場等)・娯楽施設(映画館、ボウリング場、体育館、ゴルフ場等)
	106	生活関連サービス業(公衆浴場、クリーニング、理美容院、衣服修理等)
	107	作業的サービス業(運輸(バス・タクシー会社)、自動車修理、ガソリンスタンド等)
	108	その他
その他	121	

減量明細の表面と裏面にある「発生量」の「合計」欄の値を合計し、記入してください。

主な廃棄物について、発生抑制・再使用の取組及び再生利用の方策を記入してください。

リサイクル原料を使用した再生品の使用の有無及びその品目における再生品の使用割合を記入してください。

事業系廃棄物	発生量	前 年 度	63.44 トン	
		今年度(見込み)	58.44 トン	
	廃棄物の種類	区 分	前 年 度	今年度計画
		発生抑制及び再使用の取組	再生利用の方策	発生抑制及び再使用の取組
OA用紙		コピー用紙の両面使用	紙の種類ごとの回収容器の設置による分別の徹底	コピー使用時の確認の徹底によるミスコピーの削減
廃棄物の発生抑制等の方策	秘密書類		秘密情報を含む文書の出力の抑制	秘密書類リサイクル業者との契約
	厨芥類	水切りの徹底		水切りの徹底
	空き缶・ペットボトル		マイボトル持参の呼びかけによる飲料容器の削減	分別回収容器の設置による分別の徹底
再生品の使用	再生紙	前年度		今年度計画
		コピー用紙	〇有 (100 パーセント) 〇無	〇有 (100 パーセント) 〇無
		トイレットペーパー	〇有 (パーセント) 〇無	〇有 (100 パーセント) 〇無
	その他の再生品	印刷物	〇有 (50 パーセント) 〇無	〇有 (100 パーセント) 〇無
		その他()	〇有 (パーセント) 〇無	〇有 (パーセント) 〇無
		再生事務用品	〇有 (パーセント) 〇無	〇有 (100 パーセント) 〇無
その他の再生品	プリンター用トナー	〇有 (パーセント) 〇無	〇有 (100 パーセント) 〇無	
		〇有 (パーセント) 〇無	〇有 (パーセント) 〇無	

注1 該当する□には、〇印を記入してください。
注2 「廃棄物の発生抑制等」とは、廃棄物の発生抑制、再使用及び再生利用をいいます。

事業用大規模建築物の所有者

- その建築物の所有権を有する者をいいます。また、以下の場合も所有者とみなします。
- その建築物が共有又は区分所有である場合の、管理組合の代表者
 - その建築物が共有又は区分所有である場合であって、管理組合が構成されていない場合、その共有者又は区分所有者から選ばれた代表者
 - その建築物の全部を賃借その他の理由により、事実上占有している者
 - その建築物の所有者から、その建築物に関する総合的な管理権限を与えられている者

<事業系廃棄物減量明細の記入方法>

- 減量明細書(表面)は、事業系一般廃棄物のみ記入してください。(紙くず、生ごみ、木くず等で、産業廃棄物として処理しているものは記入しないでください。)

① ごみ発生量	再生利用量と廃棄量を合わせた量を記入します。
② 再生利用量	適正に分別し、再資源化業者等に引き渡す量です。
③ 廃棄量	許可業者に委託又は自ら京都市の処理施設に搬入するなどして、廃棄処分した量です。
④ 再生利用率	ごみ発生量のうち再生利用量が占める割合を%で(②÷①×100)記入します。
⑤ 資源回収業者	②再生利用量に挙げた再資源化物について、再資源化委託先の名称と電話番号を記入します。
⑥ 廃棄物処理業者	③廃棄量に挙げた廃棄物について、処理を委託している許可業者をコード番号で記入します。自己処理等の場合も処理方法に応じたコードを記入します。
⑦ 量の把握方法から、記号で記入してください。	ア 重量の実測 イ 容積の実測(右表により重量へ換算) ウ 処理業者からの聞き取り エ 購入量からの把握 オ その他の方法
⑧ 雑誌	雑誌のほか、書籍、パンフレット等もここに記入してください。
⑨ O A用紙	コピー用紙やプリンター用紙などを記入してください。秘密書類として処理したものは別に記入します。
⑩ 秘密書類	秘密書類として分別して処理したものを記入します。
⑪ その他の雑がみ	紙ごみのうち、他の区分に分別されずに処理されたもの(雑がみ)を記入します。
⑫ 生ごみ	食べ物のくず、食品廃棄物などをいいます。ただし廃食用油は裏面の項目で別に記入します。
⑬ 燃やすごみ	床掃除のごみなど、以上のいずれの項目にも該当しないものはこの欄に記入します。
⑭ その他	紙おむつ、剪定枝、枯れ草など業種によって比較的多く排出している廃棄物をこの欄に記入します。

表1 業種別容積から重量への換算のための係数(t/m³、kg/%)

(資源化されている物や大型ごみを含まない、事業系ごみ全体を換算する場合に使用)

業 種	重量換算係数
建設業	0.17
製造業	0.34
卸売業	0.18
小売業	0.19
百貨店・スーパー	0.24
コンビニエンスストア	0.24
飲食店	0.22
ファーストフード	0.17
レストラン	0.22
ファミリーレストラン	0.21
喫茶等軽食	0.15
事務所	0.08
サービス業	0.15
ホテル・旅館	0.15
病院	0.19
老人ホーム	0.27
幼稚園・保育園・小中学校	0.13
専門学校・大学	0.10
集客施設(駅バチンコ店等)	0.11
作業的サービス業(運輸・自動車整備・GS等)	0.09
家庭向けサービス業(美容院・スポーツクラブ、寺院等)	0.12
全項目合計	0.18

平成29年度業者収集ごみ組成実態調査結果から算出

表2 ごみの種類別容積から重量への換算のための係数(t/m³、kg/%)

(種類ごとに分別貯留している場合に使用 ※通常のごみ置き場に捨てられたごみ)

ごみの種類	重量換算係数
紙類	0.08
紙製容器包装類	0.04
シュレッダーくず	0.04
プラスチック類	0.05
ペットボトル	0.03
繊維類	0.15
ゴム類	0.20
皮革類	0.15
ガラス類(ビン等)	0.36
金属類	0.08
アルミ缶	0.03
スチール缶	0.08
厨芥類	0.42
木片類	0.15
草木屑	0.13
紙おむつ	0.20
全項目合計	0.12

平成29年度業者収集ごみ組成実態調査結果から算出

きちんと積み重ねて保管した古紙類

(事業系廃棄物の減量化のための分別収集モデル事業「H1Q.3」から、資源として分別排出された古紙類の平均換算係数)

あくまでも参考値です。ごみの重量の把握はできるだけ実測してください。

記入例(裏面上)

産業廃棄物のうち主に資源化できるもの

年度区分 種類	前年度の実績(〇〇年4月～3月)			今年度の計画(〇〇年4月～3月)			処理方法(委託・自己処理) (委託業者の名称・連絡先 (コード番号等))	量の把握方法 (注4)
	発生量 (A+B) トン	再生利用量 (A) トン	廃棄量 (B) トン	発生量 (C+D) トン	再生利用量 (C) トン	廃棄量 (D) トン		
廃食用油	⑮ 0.40	0.40	0.00	0.40	0.40	0.00	**化学	イ
缶	⑯ 2.00	0.00	2.00	2.00	2.00	0.00	995	ウ
びん	1.53	0.00	1.53	1.53	1.53	0.00	995	ウ
ペットボトル	0.21	0.00	0.21	0.21	0.21	0.00	995	ウ
プラスチック類 (ビニール系等)	⑰ 0.10	0.00	0.10	0.10	0.10	0.00	〇×産業	イ
合 計	4.24	0.40	3.84	4.24	4.24	0.00		
再生利用率	(A) / (A+B) × 100 (%)			9.43%	(C) / (C+D) × 100 (%)			100.00%

*小数点以下第2位(小数点第3位を四捨五入)まで記入してください。

- ⑮ 廃食用油・・・厨房などで使用するてんぷら油の排出量について記入します。
⑯ 缶、びん、ペットボトル・・・飲料の容器について記入します。飲料以外の容器は記入しません。
⑰ プラスチック類・・・昼食などの弁当ガラ、商品を包装しているプラスチック類等を記入してください。
⑱ 委託業者・・・再生利用量・廃棄量に挙げた廃棄物について、処理を委託している業者を記入してください。

(注4) 量の把握方法
ア 重量の実測
イ 容積の実測
ウ 処理業者からの聞き取り
エ 購入量からの把握
オ その他の方法

メーカー納入業者引き取りの場合は、再生利用量のところに数量を記入してください。数量がわからない場合は、記入しなくても構いませんが、できるだけ把握してください。

記入例(表面)

(第1号様式)

事業系一般廃棄物

年度区分 種類	前年度の実績(〇〇年4月～3月)			今年度の計画(〇〇年4月～3月)			処理方法(委託・自己処理) (委託業者の名称・連絡先 (コード番号等))	量の把握方法 (注4)
	発生量 (A+B) (1) トン	再生利用量 (2) トン	廃棄量 (3) トン	発生量 (7) トン	再生利用量 (8) トン	廃棄量 (9) トン		
新聞紙	0.60	0.60	0.00	0.60	0.60	0.00	古紙回収(〇〇) 〇〇〇-〇〇〇	エ
雑誌	⑧ 7.00	7.00	0.00	7.00	7.00	0.00	同上	エ
段ボール	9.00	9.00	0.00	9.00	9.00	0.00	古紙回収(〇〇) 〇〇〇-〇〇〇	ア
O A用紙 (秘密書類を除く)	⑨ 14.00	5.00	9.00	12.00	12.00	0.00	同上	ア
秘密書類	⑩ 7.00	0.00	7.00	6.00	6.00	0.00	996	ウ
シュレッダー紙	5.00	0.00	5.00	5.00	5.00	0.00	100	イ
その他の雑がみ (注1)	⑪ 2.00	0.00	2.00	1.60	1.60	0.00	100	エ
生ごみ (注2)	⑫ 10.00	0.00	10.00	9.00	0.00	9.00	100	エ
燃やすごみ(注3)	⑬ 4.60	0.00	4.60	4.00	0.00	4.00	100	エ
その他(注3)	⑭ 0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
合 計	59.20	21.60	37.60	54.20	41.20	13.00		
再生利用率	(A) / (A+B) × 100 (%)			43.60%	(C) / (C+D) × 100 (%)			76.00%

*小数点以下第2位(小数点第3位を四捨五入)まで記入してください。

(注4) 量の把握方法
ア 重量の実測
イ 容積の実測
ウ 処理業者からの聞き取り
エ 購入量からの把握
オ その他の方法

- (注1) その他の雑がみ・・・チラシ・カタログ、紙類、封筒・はかき、紙製包装類、紙袋など
(注2) 燃やすごみ・・・たばこの吸殻、使用済みのティッシュペーパー、床掃除のごみ、汚れ等により再生利用できない紙など
(注3) その他・・・紙おむつ、剪定枝、枯れ草など

記入例(裏面下)

① 業 種 (業種区分表に基づき記入してください。)	94	③ 廃棄物管理責任者	総務課長 京都 一郎
② 建物内で働いている人の総数	102 人	④ 記 入 者	総務課 循環 良子
⑤ ごみ量が前年度と比べて大幅増減した場合は、その理由を次から選んでください。 1 テナントが増えた(減った)ため 2 事業を拡張(縮小)したため ① ごみ量の把握方法を変更したため 5 その他(具体的に記入してください)			
⑥ お気付きの点やご意見、御質問等を記入してください。			
環境マネジメントシステム等の取得状況 (該当する項目にチェックしてください) □ISO14001 年取得 □KES(ステップ1, □ステップ2) 19 年取得 □その他環境マネジメントシステム (エコアクション21) 20 年取得 □エコドライブ推進事業前 □グリーン購入を実施している 年から実施			

環境マネジメントシステムの取得状況を記入します。
また、取得した年も記入してください。

その建築物内で常時働いている人数を記入します。パート・アルバイトについても、常時勤務している平均的な人数を記入してください。
また、学校等については、職員数と学生等の数を別途挙げ、「20人(ほか学生200人)」のように記入してください。

一覧表から業種を選び、番号を記入します。

事業用大規模建築物減量計画書の作成を実際に担当された方の氏名を記入します。

廃棄物管理責任者の氏名を記入します。